

ロジスティクス管理 2級

平成29年4月

| 試験範囲            |                            |  |  |  |   |   |
|-----------------|----------------------------|--|--|--|---|---|
| I. ロジスティクス管理の体系 | 1. 企業経営とロジスティクス管理          | (1) 経営におけるロジスティクスの位置づけ   | イ 企業経営とロジスティクス管理<br>ロ ロジスティクスの使命と目的<br>ロ ロジスティクスの管理範囲              | ① 企業経営環境変化とロジスティクス<br>② 企業価値とロジスティクス施策<br>③ 顧客価値(CS)<br>④ ロジスティクスネットワークの形成とスルーブックタイム<br>⑤ 効率的なシステム形成とマネジメントによるコスト削減<br>⑥ プラント力と協業的責任<br>⑦ 在庫マネジメント<br>⑧ ロジスティクスの定義と目的<br>⑨ ロジスティクスの範囲<br>⑩ 経営環境の変化とサプライチェーン・マネジメント |   |   |
|                 |                            | (2) ロジスティクス管理サイクル  | イ ロジスティクス管理の階層<br>ロ 管理サイクル   | ① ロジスティクス戦略管理<br>② 受給管理<br>③ ロジスティクス・システム管理<br>④ 顧客サービス管理<br>⑤ 調達管理<br>⑥ 作業管理  |   |   |
|                 |                            | (3) ロジスティクス管理の組織   | イ ロジスティクス管理組織の構築<br>ロ サードパーティ・ロジスティクスとロジスティクス組織                    | ① ロジスティクス管理の特徴と組織<br>② グローバリゼーションとロジスティクス管理組織<br>③ 物流業務委託の利点<br>④ サードパーティ・ロジスティクス(SPL)<br>⑤ 物流子会社とサードパーティ・ロジスティクス<br>⑥ リスクマネジメントと日本版SOX法   |   |   |
|                 |                            | 2. ロジスティクス統制   | (1) ロジスティクスとリスクマネジメント  | イ リスクマネジメントの必要性<br>ロ ロジスティクスのリスク<br>ハ リスクマネジメントの流れ   | ① 荷主企業のロジスティクスにおけるリスク<br>② 物流活動におけるリスク<br>③ PLとリスクマネジメント<br>④ リスクの識別<br>⑤ リスクの評価<br>⑥ リスクへの対応   |   |
|                 |                            |  | (2) 物流品質管理   | イ 物流品質の種類と管理の範囲<br>ロ 物流品質管理の要点   | ① 物流品質の種類<br>② 物流品質管理の範囲<br>③ 作業教育と訓練、設備、管理体制<br>④ ISO9000  |   |
|                 |                            |  | (3) ロジスティクス評価指標  | イ ロジスティクス管理と経営効率指標<br>ロ 評価指標の選定<br>ハ 代表的な評価指標  | ① 経営指標とロジスティクスの関係<br>② ROA、ROEとロジスティクス<br>③ キャッシュフローとロジスティクス<br>④ 管理の観点と評価指標<br>⑤ 指標のブレイクダウン<br>⑥ 総合指標  |   |
|                 |                            |  | (4) ロジスティクス監査  | イ ロジスティクスと監査<br>ロ ロジスティクスの監査項目<br>ハ ロジスティクス監査プログラムの策定  | ① 監査とその方向性<br>② ロジスティクス監査の必要性<br>③ コンプライアンス監査<br>④ 監査の手順<br>⑤ 情報システム監査ガイドラインの活用   |   |
|                 |                            |  | 3. 物流サービス管理  | (1) 物流サービスの構成要素  | イ 物流サービスの構成要素<br>ロ 物流サービスの役割  | ① 顧客満足と物流サービス<br>② 社内調査<br>③ 顧客へのサービス実態調査<br>④ ベンチマーキング   |
|                 |                            |  |  | (2) 物流サービス管理サイクル   | イ 物流サービスの管理サイクル<br>ロ 物流サービスの現状調査<br>ハ 物流サービスの分析・評価と物流サービスレベルの設定<br>ニ 実行体制の確立と推進   | ① 調査結果の分析<br>② 顧客のセグメント化とサービスレベルの設定<br>③ 顧客への情報発信<br>④ 作業システム対応・情報システム対応<br>⑤ 組織ビジョンの醸成<br>⑥ 評価システムの変更<br>⑦ 投資と教育     |
|                 | 4. ロジスティクスと環境問題            | (1) ロジスティクスと環境問題の関わり   |  | ホ 成業の測定と改善<br>イ 地球環境問題と国際条約<br>ロ 産業と気候変動<br>ハ 環境に関する各種行政施策<br>ニ ロジスティクスと環境問題   | ① 廃棄物・リサイクル問題対策関連法規<br>② 経済産業省<br>③ 国土交通省<br>④ 物流活動の環境負荷削減<br>⑤ 取引条件の改善によるCO2削減<br>⑥ 循環型社会形成に向けた静脈物流の整備<br>⑦ 環境に関する新たな事業分野の開拓<br>⑧ 環境規制に対応した製品の供給   |   |
|                 |                            | (2) 輸送と環境問題  | イ 輸送と地球温暖化<br>ロ グリーン物流総合プログラムにおける重点推進策<br>ハ 省エネルギー法<br>ニ 輸送と大気汚染問題 | ① 法規制の骨子<br>② 二酸化炭素(CO2)排出量の算出方法<br>③ モータールンフによるCO2効果の算出(計算事例)<br>④ 自動車NOx・PM法<br>⑤ 地方自治体における運行規制<br>⑥ リサイクル法における関係者の責務<br>⑦ 法対象となる各種および製品   |   |   |
|                 |                            | (3) その他の環境規制とその動向  | イ リサイクル法<br>ロ 廃棄物とその処理<br>ハ 欧州における環境法規制                            | ① 廃棄物の定容と区分(処理責任)<br>② 産業廃棄物管理(マニフェスト)制度の運用<br>③ 環境行動計画と予防の原則<br>④ 生産者責任<br>⑤ 官民パートナーシップ<br>⑥ 国際海事機関(International Maritime Organization)のエネルギー効率協定(EEDIおよびSEEMP)<br>⑦ 物流システムや国土形成計画<br>⑧ 多岐にわたる物流関連案件             |   |   |
|                 |                            | 5. 物流に関する政策  | (1) わが国の物流政策   | イ これまでの物流政策<br>ロ 総合物流施策大綱(2013-2017)<br>ハ 物流総合効率化法、改正道路交通法<br>ニ 国土交通省生産性基金プロジェクト<br>ホ 大都市圏や自律による物流政策<br>ヘ 国際物流への取り組み<br>ト 災害ロジスティクス  | ① 総合物流施策大綱のこれまでの経緯<br>② 総合物流施策大綱(2013-2017)の概要と基本的方向性<br>③ 総合物流施策大綱(2013-2017)の特徴<br>④ 物流総合効率化法<br>⑤ 改正道路交通法<br>⑥ 東京都圏の望ましい物流の実現に向けての概要<br>⑦ 東京圏総合物流ビジョン<br>⑧ 国際物流競争力パートナーシップ会議<br>⑨ アジア経済の大都市圏における流通政策<br>⑩ 国際コンテナ戦略港湾政策<br>⑪ 国際ハルク戦略港湾政策<br>⑫ 地方における国際物流の取り組み |   |
|                 |                            |  | (2) 諸外国の物流政策   | イ 物流規格の国際比較<br>ロ 欧州における国際間の複合輸送<br>ハ アジア諸島の大都市圏における流通政策<br>ニ 欧米諸国の都市内物流施策  |   |   |
|                 |                            |  | II. 在庫・システム・コスト管理  | 1. 在庫管理  | (1) 在庫管理方式の種類   | イ 在庫管理方式の種類と計算方法<br>ロ 在庫分庫と在庫削減の方策  |
| (2) 需要予測        | イ 需要予測の概要<br>ロ 需要予測に使われる手法 | ① 需要予測の目的<br>② 需要変動の要素<br>③ 需要予測手法の体系<br>④ 需要予測システム設計の留意点<br>⑤ 需要予測のステップ<br>⑥ 移動平均法<br>⑦ 指数平滑法<br>⑧ 相関分析<br>⑨ 回帰分析 |  |  |   |   |
| (3) 在庫分析手法      | イ ABC分析の活用<br>ロ 在庫数量分析の活用  | ① Aランク品<br>② Bランク品<br>③ Cランク品  |  |  |   |   |
| 2. 物流システム管理     | (1) 企業間物流システム              | イ 組み立て型メーカーにおける調達物流改革<br>ロ 共同物流<br>ハ VMI<br>ニ 国際VMI<br>ホ OCP   |  |  | ① 調達物流の特徴<br>② JIT<br>③ ミルクラン<br>④ 共同配達のパターン<br>⑤ 共同配達の成功条件   |   |
|                 | (2) 物流拠点の計画                | イ 物流拠点の立地選定<br>ロ 拠点規模の見積もり<br>ハ 物件の選定  |  |  | ① 在庫拠点選定における物流拠点再編<br>② コスト・リード・オフ分析に基づく物流拠点立地選定<br>③ 拠点立地選定の方法<br>④ 経理内規模<br>⑤ 事務所・福利厚生スペース<br>⑥ 屋外スペース<br>⑦ 所有形態<br>⑧ 物件選定要素  |   |
|                 | (3) 輸送モードの選定               | ニ レイアウトの設計<br>イ 輸送モード選定の視点<br>ロ 国際物流における輸送モードの選定<br>ハ 輸送事業者の選定   |  |  | ① 国際輸送にかかわる事業者と責任範囲<br>② 国際複合・一貫輸送<br>③ 国際輸送のモード選定と在庫削減   |   |
|                 | (4) 物流システムの開発              | イ 物流システム開発プロジェクトの設置<br>ロ 物流システムの開発タスク<br>ハ 導入スケジュール<br>ニ 稼働判断のチェック項目   |  |  | ① プロジェクトマネジメント<br>② 物流情報システム<br>③ 倉庫の設備・構築<br>④ 倉庫のオペレーション<br>⑤ 輸配送<br>⑥ 総務関連<br>⑦ 移転<br>⑧ 物流情報システムの完成<br>⑨ 作業員の教育訓練の完了<br>⑩ 輸配送手段の確保とドライバー教育の完了<br>⑪ 移転の完了<br>⑫ バックアップ体制の準備  |   |
|                 | 3. 在庫管理                    | (1) 在庫管理方式の種類  |  |  | イ 在庫管理方式の種類と計算方法<br>ロ 在庫分庫と在庫削減の方策  | ① 不定期定量補充方式<br>② 定期定量補充方式<br>③ 不定期定量補充方式<br>④ 在庫品の分類と特性<br>⑤ 在庫保有期間(滞留期間)による在庫の分類<br>⑥ 在庫の配置(拠点数、階層数)の削減<br>⑦ 在庫削減の方策 |
|                 |                            | (2) 需要予測   |  |  | イ 需要予測の概要<br>ロ 需要予測に使われる手法  | ① 需要予測の目的<br>② 需要変動の要素<br>③ 需要予測手法の体系<br>④ 需要予測システム設計の留意点<br>⑤ 需要予測のステップ<br>⑥ 移動平均法<br>⑦ 指数平滑法<br>⑧ 相関分析<br>⑨ 回帰分析    |
| (3) 在庫分析手法      |                            | イ ABC分析の活用<br>ロ 在庫数量分析の活用  |  | ① Aランク品<br>② Bランク品<br>③ Cランク品  |   |   |

試験範囲

|                                  |                  |   |  |   |   |
|----------------------------------|------------------|---|--|---|---|
| 3. 物流コスト管理                       |                  | (5) 委託先管理   | イ 委託先の選定   | ① 入札の流れ<br>② 提案の要求<br>③ 提案書の作成<br>④ 提案書の評価と委託先の決定   |   |
|                                  |                  | ロ 料金体系の選定と料金の協定   |  | ① 料金体系の選定<br>② 料金の協定  |   |
|                                  |                  | ハ 契約  |  |   |   |
|                                  |                  | ニ 管理指標とインセンティブ・違約事項の設定  |  | ① 指標による委託業務管理<br>② インセンティブ・違約事項と契約タイプ<br>③ サービスレベルアグリーメント (SLA)   |   |
|                                  |                  | (6) 物流拠点の業務改善   | イ 物流拠点の業務改善の視点   |   | ① 稼働率<br>② 人員費の構成<br>③ 情報システムの活用  |
|                                  |                  | ロ 物流拠点の業務改善のための分析   |  | ① 組織体制分析<br>② レイアウト分析<br>③ 作業フロー分析<br>④ 要因配置分析<br>⑤ クリーンシフト分析   |   |
|                                  |                  | (1) 物流原価と予算管理   | イ 原価計算の概要  |   | ① 物流原価の算定<br>② 財務会計、管理会計と原価計算<br>③ 直接原価計算と全部原価計算<br>④ 限界利益<br>⑤ 限界利益の問題点                      |
|                                  |                  | ロ 予算管理  |  | ① 物流コスト管理と予算<br>② 中長期計画と予算管理<br>③ 物流予算の編成手順<br>④ 予算による統制  |   |
|                                  |                  | (2) 物流ABC   | イ 物流ABCの概要   |   | ① ABCと物流コスト<br>② 物流ABCのコストモデル<br>③ 物流ABCの計算手順   |
|                                  |                  | ロ 物流ABCを用いた各種分析   |  | ① 顧客別サービス是正交渉項目のための分析<br>② 物流サービス水準設定検討時のコスト効果分析<br>③ 製品別物流コスト分析  |   |
| 3. 物流コスト管理                       |                  | (3) 棚卸資産  | イ 棚卸資産評価の重要性   |   |   |
|                                  |                  | ロ 取得と販売時点における棚卸資産の扱い  |  | ① 定価法<br>② 棚卸資産の簿価評価方法<br>③ 切り戻し法と洗い替え法   |   |
|                                  |                  | ハ 低価法による時価評価  |  |   |   |
|                                  |                  | ニ 減耗損・評価損・廃棄損と財務諸表との関係  |  |   |   |
|                                  |                  | イ 物流採算計算  |  | ① 採算分析の必要性<br>② 採算分析と原価計算の違い<br>③ RCI法  |   |
|                                  |                  | ロ 投資を伴う採算分析   |  | ① 現在価値法<br>② ROI法   |   |
|                                  |                  | (1) 自動認識技術とその活用   | イ 自動認識技術の種類と概要   |   | ① 自動認識技術の種類と概要<br>② 物流への活用  |
|                                  |                  | ロ OMR・OCR・磁気ストライプ   |  | ① OMR (Optical Mark Reader)<br>② OCR (Optical Character Recognition)<br>③ 磁気ストライプ (Magnetic Stripe)                 |   |
|                                  |                  | ハ データキャリア   |  | ① 概要<br>② バーコード<br>③ RFID (Radio Frequency Identification)  |   |
|                                  |                  | (2) 無線技術とその活用   | イ 無線LAN  |   | ① 概要<br>② 物流への活用  |
| ロ 移動体通信                          |                  |   |  |   |   |
| ハ 衛星通信                           |                  | ① 衛星通信とその活用<br>② GPSとその活用   |  |   |   |
| 3. 物流コスト管理                       |                  | (3) 企業間情報交換と情報通信技術  | イ 企業間での情報交換とEDI  |   |   |
|                                  |                  | ロ 物流EDI   |  |   |   |
|                                  |                  | ハ 物流VAN   |  |   |   |
|                                  |                  | ニ インターネット技術とその活用  |  |   |   |
|                                  |                  | ホ 物流クラウドシステム  |  |   |   |
|                                  |                  | (4) 開発および運用技術とその活用  | イ パッケージソフトウェアの活用   |   | ① パッケージソフトウェア<br>② ロジスティクスとパッケージソフトウェア<br>③ パッケージの選定とカスタマイズ<br>④ 物流向けパッケージソフトウェアサービス          |
|                                  |                  | ロ ネットワーク経由でのアプリケーション活用  |  | ① ネットワーク経由でのアプリケーション提供の種類<br>② 開発・運用における情報技術の選定<br>③ 物流経路最適化からの体系<br>④ 物流経路3層からの体系 (戦略・計画、管理、業務)<br>⑤ 物流ネットワークからの体系 |   |
|                                  |                  | (1) ロジスティクス情報システムの概要  | イ ロジスティクス情報システムの体系   |   | ① 物流経路最適化からの体系<br>② 物流経路3層からの体系 (戦略・計画、管理、業務)<br>③ 物流ネットワークからの体系                              |
|                                  |                  | ロ ロジスティクス情報システムの開発と運用のポイント  |  | ① 物流の可視化・追跡化・即時化・自動化システム<br>② 運用の留意点  |   |
|                                  |                  | (2) 発注処理システム  | イ 発注処理システムの概要  |   |   |
| ロ オーダーエントリーのオンライン化・EDI化・インターネット化 |                  |   |  |   |   |
| ハ 発注処理システムと顧客サービス                |                  |   |  |   |   |
| ニ 事前出荷案内 (ASN)                   |                  |   |  |   |   |
| (3) 購買・発注処理システム                  | イ 購買・発注処理システムの概要 |   | ① 在庫管理と発注処理方法<br>② 自社発注システム<br>③ パートナーシップ構築システム<br>④ 協同発注 (コラボレーション) 構築システム (CPFR) |   |   |
| ロ 発注のタイプ                         |                  |   |  |   |   |
| (4) 在庫管理システム                     | イ 在庫管理システムの概要    |   |  |   |   |
| ロ 単品管理と管理情報の精度                   |                  | ① 単品管理<br>② 単品管理情報<br>③ 管理情報の精度   |  |   |   |
| ハ S&OP                           |                  |   |  |   |   |
| ニ 在庫適正化と在庫管理システム                 |                  |   |  |   |   |
| (5) 倉庫管理システム                     | イ 倉庫管理システムの概要    |   |  |   |   |
| ロ WMSによる業務の流れ                    |                  | ① 入庫・格納処理<br>② ピッキング・出荷処理<br>③ 返品処理<br>④ 棚卸処理<br>⑤ ロケーション管理とはい替え<br>⑥ 荷役機器などへの接続とその制御 |  |   |   |
| ハ 倉庫管理システム高度化の方向                 |                  | ① LMS (レイバー管理システム)<br>② YMS (ヤード管理システム)<br>③ 音響による倉庫内業務支援<br>④ ロボットによる倉庫内作業の迅速化・省力化   |  |   |   |
| (6) 輸送管理システム                     | イ 輸送管理システムとその構成  |   | ① 輸送管理システムの概要<br>② 管理対象から見た輸送管理システムの層別<br>③ 輸送管理高度化に向けた情報システムの要件                   |   |   |
| ロ 配車計画システム                       |                  |   |  |   |   |
| ハ 運行管理システム                       |                  | ① 目的<br>② 運行管理システムの基本構成   |  |   |   |
| ニ 輸送モード選択・運賃計算システム               |                  | ① 輸送モードの選択<br>② 運賃計算システム  |  |   |   |
| ホ ITS (高度道路交通システム)               |                  | ① ITSの定義<br>② 貨物輸送分野への応用  |  |   |   |
| (7) SCMのための情報システム                | イ SCMと情報システム     |   |  |   |   |
| ロ SCM関連のパッケージ                    |                  | ① SCP (サプライチェーン・プランニング)<br>② SCMパッケージ   |  |   |   |
| (8) 物流分析・シミュレーションシステム            | イ 物流分析           |   | ① 物流分析の必要性とその方法<br>② 分析環境の構築<br>③ 生産性分析のための要件<br>④ ビッグデータの活用                       |   |   |
| ロ 物流シミュレーション                     |                  | ① シミュレーションの必要性とその方法<br>② シミュレータの活用  |  |   |   |
| 3. 国際物流における貿易業務取引と情報システム         |                  | (1) 輸出入業務システム   | イ 国際物流の概要  |   |   |
|                                  |                  | ロ 輸出フォワーディング業務  |  | ① 国際物流効率化の必要性<br>② 国際物流における手続の概要<br>③ 売買契約の締結とインコタームズ   |   |
|                                  |                  | ハ 輸入フォワーディング業務  |  | ① 輸出の許可・承認の取得<br>② 輸出税額<br>③ 輸出通関<br>④ 手仕舞い   |   |
|                                  |                  | ニ 関税とHSコード  |  | ① 輸入通関<br>② 貨物の引き取り<br>③ HSコード<br>④ 日本における輸入関税<br>⑤ 輸出側における輸入関税   |   |
|                                  |                  | ホ 貨物海上保険  |  |   |   |
|                                  |                  | ロ 日本における輸出入申請に関するシステム   |  |   |   |
|                                  |                  | ハ 港湾情報システム  |  | ① 日本における港湾情報システム<br>② 中韓の情報サービス<br>③ 海外における港湾情報システム   |   |
|                                  |                  | (2) 輸出入情報システム   | イ 貨物追跡システム   |   | ① 国際輸送における貨物追跡システムの重要性<br>② 運送者・荷主等の観点での貨物追跡システムの分類<br>③ 貨物追跡システムの事例<br>④ 貨物追跡システムにおけるRFIDの活用 |
|                                  |                  | ロ セキュリティ管理システム  |  |   |   |
|                                  |                  | ハ 国際物流におけるEDI   |  |   |   |